

天甲

神运不勤
流打筹体術
一券八相

神伝不動流打拳体術

天甲型

一拳八相

敵が袖片脛捕る或又片脛捕るとあるは練習中だとして本型は右拳と落とて右拳は何もとらざるのである

日撃

敵右拳脛左拳袖口持て来る或も同じく敵背負て来る或右拳後ろに伸し脛部を(腹)

前と張り敵投げ切はず或右拳五指指背南にして敵顔面打ち同時に膝落し右足敵の右側へ廻り左分牌を落して投げ右脇当り込んで残心此の技に対して腰を入れる時十人の者が敵に後ま見せる事も及対に投ずればせよかと思つて半ラ心

二重型

出る為腰を入れる事が短気となる者多し右に對し腰を充分落してはくと後ろより三角錐と抱きかかえさる事有可し腰を充分落してはくば後ろから技かすも事有可し辨せえ充分落してはくば後ろから技前通り五指にて敵の顔面打ちと同時に左拳にて敵の脛持右拳甲を掴み左へ体を引く敵の右拳送となる右拳にて敵の脇直に当り込んで引いて残心

果型斬と同じ最後に脇直當り止ませず或右足充分に引いて座す敵仰向に倒れる右足にて敵の脇直蹴込みで残心

月肝 相手方前より右手拳打込来る右手にて受守

その手首持右拳敵の右肩を相引く同時に
右足敵の水月を蹴込すもの右足大きく後方に倒る
座す敵俯向きに倒る敵右腕送折すはす是義

裏型 前より右より左手より敵の右より首持右より右手

腕を伐右手に一式込んで右足敵の右足後ろに出して
俯向きに倒れる其の式は敵の腕折ります残心

裏型 前より右より左手より敵の右より首持右より拳水月

当込んで右より敵の右手下から一式込んで背負
投げ残心

風 一塵 相手方前より伐両腕締由来る伐両手敵の
肩に守と置くなり両足敵の胸を巻き右拳手面部

当込で両手下にあり敵の両足首を引く敵倒れる
伐一回回して立す残心

裏型 前より右より敵の胸巻く敵の両足当込んで体

を元に戻して残心

裏型 前より胸を巻いて両手より敵の胸を持ち引いて

伐頭部に右面部打込んで両手下にあり敵の

両足首持ち引く敵倒れる伐一回回して立す
残心

雨龍

敵後をわき後抱き踵の来る右手押指敵の身
指関節をきき四指は敵の掌上部より相手を落
して右手の上に乗ると敵の手小関節を逆にする右側に
扱いて左足を分後に後を座し片手を投げ残り心

裏型 前と同じ右技事

裏型

前と同じく右へ扱けて丸ヒジにて敵の右脇
当りて背負投げ

雲雀

敵前より右拳面部打を来り代腰落し
敵の前より雨手抱込伏す息を雷を空に舞上る
ひく右拳を空に敵アゴ下より突上げ同時に右手は
敵の左脇下相手を体落し女分に腰入れて右石
落し 誠心

裏型 前と同じ右技の事

裏型 前と同じ右手にて脇を捕たす右手にて敵
の左脇下より右腕後を以て廻り敵の左腕を
捕りて一石を落し残り

霧散

敵前より右手拳木目に突込来る一寸右の体
をひかりかきして左手にて敵の右手首より
拳をかく敵の面部を打つ敵の右脇下を替り
敵の右手首をひきこむもの敵の腕を替り
打つ腕折りこいて破心

霧散

裏型

前の通り左技の事

裏型

前と同じく敵の右腕下階りして右足にて

敵の右脇蹴込んば右足後ちこ
に
腕す右手は敵の肩抱す敵の俯向けに
破心

霧

敵前より右手拳打来る(面部)

代を手にて受けその手首捕る右手敵右腕の下
から差捕り敵の右腕逆となる
折りて涌の右手敵の右肩持し腕逆に入れ
背負控す敵の右脇上より右足こし踏みす
当ふも破心

裏型

左技背負い投げ

裏型

前と同じく敵の右脇上から右手こし差をす
右足大外のひきこしと投げ破心

震雷

敵右手杖の片抱捕り来るもの手首を左手に

て捕り右手斧敵の脇に当止と左足引く

のと同時に右手にて敵の肩を引く

後ろに引き座す敵俯向に倒る右足

を引く敵の右腕付根押之左手敵の手首

を持つた杖を上げ腕折心

震雷 上の通り女投の事

集型 前の通り右杖で捕り首を絞ちより

三角飾め

震雷

④

敵右手杖の背腕捕りくくるもの手首
を左手ひいてとり右手拳敵の脇肘当込と
右足取りくると同時右手にて敵の肩を
右足大きく緩らんに別まき厚す敵の肩を
倒れる右足ス平にして敵の右腕付板
押え右手敵の拳を捕りて平をさす印
により腕折成心

裏理 前の廻り右杖の事成心

裏理 前の廻り右杖で捕り

直ま後らより三角締め

神経不動流打拳体術

地ノ型 秘拳一瞬

神伝不動流打拳体術

地の型 秘拳一瞬

理 拳

①

敵と対座相争勢正座足臥先立て
 我は右足正座左足留座一の座
 其は原風季不御座と云ふも他流等
 敵者牛井眼捕る成右手より敵の右手
 首を捕り引く回と同様に左足留座の左が
 敵の右腕蹴込んて我より仰向に倒れ左腕
 にて敵の右腕とより成不んで右に体を俯向
 して敵の腕折り 決心

冬多老の傳
 (回) 15 頁

裏型 前と同じく左足右足守座左杖の事

裏型 前と同じく右足守座敵を蹴込んて元は脚成心

心奉

②

敵を定立てて右半片抱とり来る。
成を定正座を足向座敵の腹より右腕を
喉筋滑を右半片半打つのは右足で敵の
足を蹴上るのと同時伏は後ちハ一回して
五七残心

裏型

前の通り右足正座を足向座を敵の右

裏型

前の通り敵を充分抱を捕らせ右足正座
の足にて腹の抱を腕を蹴り上げ一回して
五七残心

① 胃奉 敵前の腹を定正座右足向座敵前ら

より立てて敵前には来る右足にて足を蹴ります。
左腕にて右腕の受け流し同時右足にて敵
下段蹴らんとて例一残心

裏型

前の通り左足正座を定正座を敵の

裏型

前の通り右足正座を定正座を敵の
左足正座を定正座を敵の蹴り上げて敵を

残心

変虚

④

前同く討度敵方足立より右方此處
 捕り右方小刀突入らんとす。我等
 が敵を捕るに首捕る正に敵方
 突入るの時我々右足敵側部禁完
 を蹴るのと同時 敵側部禁完
 我々右足にて敵の左膝蹴り当兵にて感
 前同く我々厚く蹴るは右方右方右方
 前同く右方足膝部禁完を蹴るのと
 蹴るのと違也

真如

真如

一問

⑤

前の通り右正右方右方足立
 我々を蹴いて右側より我々敵小刀蹴上
 より切立来る右方より我々首捕るのと
 右足敵の足蹴い我々側へ仰向に倒る押
 之より小刀捕りて敵側より我々

真如 右方足敵足立を下は蹴込とす

真如 右方足敵足立を下は蹴込とす

自然至極之型

八幡龍

自然至極之型

八幡龍

體^ノ疏し敵右手我の片腿捕る我左手にて敵の首

重心を右足に寄せ左足軽く敵の下足前
出す敵左手を拳にて我面即打す来る

我右手にてまゝの右手敵の左腕付根にうけ
るのと同じ時右足強く引く我敵の横に体
を揺す敵の膝をまじり仰向に転回

裏型右技の事

裏型前通り転回して倒る時左脇当り

敵心

不^レ拔^ハ相^ハ手^ハ左^ハ手^ハ我^ハ片^ハ根^トと^ス我^ハ敵^ハの^ハ左^ハ肩^ハ深^ク捕^ル
敵^ハ右^ハ手^ハ拳^ニは^テ横^面打^チ来^ル我^ハ左^ハ手^ニは^テ敵^ハの^ハ
右^ハ拳^ハ逆^ニ流^シめ^テ右^ハ足^ハ足^ヲ敵^ハの^ハ背^ハに^テ蹴^リ下^ス
了^ルと^ス其^ハの^ハ右^ハ肩^ハ持^ッ手^ハ充^分に^テ引^キ下^ス
敵^ハ転^ヒ回^リて^ハ仰^向け^ニ倒^レル^{コト}也

裏^型前^と同^じく^ハ木^目を^テ蹴^ラず^ハ体^を逆^リ前^に牽^キ
投^ゲ残^心也

裏^型前^と同^じく^ハ体^を左^に廻^リす^ル時^ハ左^に肘^にて^ハ当^テ
て^ハ足^も投^テ残^心也

拳^流し^敵左^に腕^を右^に手^を拳^に横^面打^チ来^ル我^ハ下^に足^を
自然^に体^を也^敵右^に手^を拳^に来^ルを^テ左^に拳^に受^テ流^シ
同^時に^テ受^テた^左拳^には^テ敵^ハの^ハ腕^を握^ル其^ハの^ハ手^を
我^ハ左^に手^にて^ハ指^上に^テし^テ其^ハの^ハ手^を首^を捕^リ
我^ハ右^に手^には^テ敵^ハの^ハ腕^を左^に側^により^テ内^にに^テ巻^キ上^テむ^{コト}也
我^ハ体^を充^分に^テ落^シし^時は^テ投^テ残^心也

敵^ハ強^クく^ハて^ハ投^テ残^心也^がか^らず^ハ我^ハ右^に手^に引^キて^ハ敵^ハを
腕^を左^に側^により^テ二^の腕^を腕^節の^上に^テ押^ス左^に足^を充^分
に^テ引^キ下^ス敵^ハ左^に腕^を逆^にの^為に^テ俯^向に^テ倒^レれ^押送^ス
んで^ハ残^心也^協敵^ハの^ハ腕^を左^に側^により^テ引^キ下^ス

裏^型前^の如^くは^テ脚^を入^レし^時は^テ投^テ残^心也^一法

裏^型前^と同^じく^ハ敵^ハの^ハ腕^を押^テ左^に足^を引^キ下^ス右^に足^にて^ハ

両手掛 敵両手にて左右動脈 締の来る。我右手は

敵の左肘を下より持上り右手は敵の右肘下
より持上り一寸先引く敵肘付入る勿に右手
先分、敵の左肘を上上げるのとき右腕落して
入らざる。同時投中

裏型 前と同じく敵は締の来る。我右足敵の股
に掛けて膝入投中

裏型 前と同じく敵は締の来る。我両手前時、敵の
両肩の下を以て突き倒し破心

鵠カササギ

敵 両手本締の来る。我両肘を両手に
持上り一寸腰落し已返し捨身投中

裏型

前と同じく本締の来る。我両手にて両肘
持上り、我身敵左横捨身投中破心

裏型 前と同じく我身敵の右横に捨身投中

卸落

敵左手片腕捕る我敵右腕ヒジ右手にて一寸上の袖を相引右手にて敵の右腕持て我右手に勢を盡く敵右手拳我眼打て来る我樽落し右手にて受け流し心々又右手にて我右手上に置き右足先分前倒り座して敵の右腕逆押之込み腕折り

裏型

前同じく敵の右手は肩木より右に右足敵下腕に掛り腕逆押之込み腕折り

裏型

前同じく右手我右手上に置き前に右手にて敵の面打ち同じく押之込み腕折り

裏型

敵左手をきく片腕捕り来る右手敵の甲の上にて我指を甲に置き四指にて軽く引き相引得る相に持て敵右手拳眼打て来る我左手にて受け流し同時に右手にて敵の左手甲に指相引して休む右に廻り投ず敵の右小関節逆をひり仰向に逆を右に廻り腕を黙いたて残心

裏型

前と同じく敵の右手拳受け流し同時に右手を刀敵の右横面打ち前と同じ

裏型

前と同じく右投の事則ち敵は右手片腕成を敵の右手甲の上に指を置き相引右投也

猿倒

敵右手片取捕り来る。右手は拳面打書

裏型

我敵の右方の甲に右手の中指遣き敵
右手は拳面一時右手は後流し右手拳
に敵の右脇に当ると右手敵の右手
中指遣き相下閉即折右足踏込
す敵も俯向き倒れる右足踏込
也

裏型

前と同じく右足踏込す右足にて敵下段
蹴とめて押込込み

不効

敵右手にて我片取捕り下より敵地
持、右の掌の辺より軽く相む敵右手拳
打込来る。我右手にて後流し心で右手
強く敵右手拳のろを相す上部は上る

裏型

敵の小関節相付折らる右横に廻り
右手にて敵右手肩を掴み右へ廻り
引き座す敵俯向き倒れる。心で右足

裏型

同じ右手にて肩を掴み右へ廻り
右足踏込す倒れる。同じ右足敵左

裏型

前と同じく敵右手首を折り折らして右足下
段に掛り、心で倒れる

自然

敵両腕捕り来ると、我自然体敵に強く押され
て面部は、我前胸に打ちつけ、右手で之を掛り
大外の四くして、俵す

裏型

敵両腕捕り、我自然体敵押して来ると、
押さえて両肩両手にて相み、右足下段に掛
り、掛身

裏型

この型は敵押さず、押さぬも、
右足の背、水月には、当り、利は、
下段に右足掛り、
利用と
利用と
自然体、